

上杉鷹山公略年譜

※年譜表記は数え年

1751年	1歳	日向国(宮崎県)高鍋藩主、秋月種美(たねみつ)の二男、松三郎として江戸に生まれる
1760年	10歳	米沢藩主、上杉重定の養子となる
1767年	17歳	第9代米沢藩主となる
1772年	22歳	「治憲」と改名、大侯約を命ずる
1773年	23歳	「籍田の礼」をはじめ
1776年	26歳	重臣7人が改革政治に反対して「七家騒動」を起こす
1785年	35歳	興譲館を再興し、学制を制定する
1787年	37歳	藩政を指導する
1802年	52歳	「鷹山」と改名する
1806年	56歳	「養蚕手引」を発行・配布
1822年	72歳	生涯を閉じる

『なせば成る!』

奮い立たせる『なせば成る!』の言葉に、勇気もらった人も多いはず。上杉鷹山は約270年前の宝暦元(1751)年、父親が藩主をしていた高鍋藩の江戸藩邸で生まれます。米沢藩の上杉家との縁から10歳のときに養子となり、17歳で9代目藩主に就任。72歳で亡くなるまで、多難な藩政改革にも屈することなく立ち向かった人物です。第35代のアメリカ大統領ジョン・F・ケネディが最も尊敬する政治家としてあげたという話はあまりにも有名です。

「鷹山公大河ドラマの会」は、大河ドラマを通して鷹山の生涯に光を当て、米沢市はもとより置賜地域全体の活性化につながればと、2021年12月に発足しました」と力を込めて語ってくれたのは、会長の相田治孝さん。その核になったのは、4年前に発足した市民団体「米沢・朝倉交流会」なのだとか。この会は、鷹山公の祖母であり第4代米沢藩主綱憲公の娘「豊姫」の嫁ぎ先である「秋月藩」があった福岡県朝倉市、そして「高鍋藩」



会長 相田治孝さん

があった宮崎県高鍋町との交流を目的とした、米沢市民の団体です。歴史でつながる3地域の有志が集まり、持ち回りでフォーラムを開きながら交流を続けてきました。そのフォーラムの中で、米沢側が「鷹山公を大河ドラマに取り上げてもらえるよう運動を展開していきたい」と提案。参加者から絶大な賛同を得たことが「鷹山公大河ドラマの会」設立のきっかけになったのです。

巻頭特集

江戸時代屈指の名君として名高い上杉鷹山。その生きたまは現代を生きる人々の指針にもなっています。破綻寸前の米沢藩を再生させたこのお殿様を、NHK大河ドラマの主人公に!という動きが今、米沢にあります。昨年発足した「上杉鷹山公NHK大河ドラマ化をすすめる会(略称:鷹山公大河ドラマの会)」取材し、メンバーの方々に鷹山公への熱い思いを語っていただきました。

「鷹山公の思いよ届け!」

今だからこそ 注目の人物

上杉鷹山の功績は数知れず。副会長の北村正敏さんによれば、「日本一貧乏な米沢藩を立て直すため、自ら質素儉約を実践しました。また、農村復興のための経済産業政策、治水鉱山開発、天然痘をはじめとする感染症との闘い、医療や子どもの養育環境の整備、学問や武道の奨励など、改革精神が旺盛でした」その言葉にうなずく、同じく副会長の安部三十郎さんは「チーム鷹山」として家臣らとともにあらゆる政策に取り組んだのです」と言葉をつなげます。さらに「『伝国の辞』に表現される、『国民のために指導者がいるのであって、指導者のために国民がいるわけではない』という考えを持ち、周囲の人の心を動かす魅力ある人柄が



副会長 安部三十郎さん



副会長 北村正敏さん

世界に誇れる 大偉人!

メンバーの鷹山愛は止まりません。さまざまなエピソードが次から次へと。紙芝居を作り、機会を見つけては上杉神社周辺などで演じている安部さんは

上杉鷹山公を NHK大河ドラマに なせばなる

上杉鷹山公NHK大河ドラマ化をすすめる会

詳細はこちら

「改革が成功したのは2度目のこと。1度目は失敗しているんです。鷹山公の素晴らしいところは失敗を踏まえて、あきらめずに再挑戦したところだと思います」と、その改革精神に尊敬の念を抱いています。

「封建時代にありながら、弱い立場の人を救済した藩主。人権意識を持って政治を行っていました。医療政策についても漢方医学が主流の時代に、長崎から入ってくる西洋医学を早く取り入れ、根拠のある医療を実践した人」と、福祉・医療政策に力を入れていた点も評価する北村さん。西洋医学を学ばせるため、藩のお金で藩医を研修に行かせたり、専門家を呼んで勉強させたり。当時すでに感染症などの危機管理意識を持ち、その先を見据えて改革を行ってきた手腕には驚くばかりです。

遠藤さんは「いっぱい話したいことあって」とメンバーを笑わせつつ、女性



安部さんの紙芝居に、足を止める人々。鷹山公に見守られているようです



2021年12月5日「発会式」の様子

鷹山公の
ここがスゴい!
ここが好き!

思いやり精神が土台となり、清廉潔白で、何をするにも自ら率先して模範を示したところがすごい。他人を信じて任せて改革を実践したところも素晴らしい!

高橋 まき子さん



「伝国の辞」に共感。興譲館や医学館を開設して優秀な人材を育てたことも大きな功績。また、かてもの、草木塔などSDGsの取り組みの先駆者。

『心の欲する所に従へども矩を踰えず』と心に決め、自分らしい生き方を貫いたところ。

伊藤 恵さん



儒学を学び、人権意識を持って福祉や医療政策など「先を読む力」で改革を行っていったところ。



伝統文化の詩吟をやっている一人として、郷土の偉人が残した詩歌を多くの方に聞いてほしい。心意気やノウハウを、若い人たちにもっともって伝えていきたい。世界に届け、鷹山公精神!

目崎 みち子さん



「民の父母になる」という、藩主としての心構えがあった人。子どもや老人、女性などの弱い人に心を配り、障がいのあった正室に寄り添った愛妻家。



記念書道吟(吟詠:目崎岳明、尺八:高橋欽山)

発会式で「伝国の辞」を吟じられました

の立場から鷹山公への思いを語ります。「自分の信念を曲げずに貫く芯の強さと、人に対する優しさを持った人だったようです」。人柄を知る逸話は他にも「鷹山公が20代の頃、馬に乗って藩内を回っていた時夕立が来そうだと庭に干していた稲を慌てて取り入れているおばあさんに出会いました。その姿を見て家臣と2人で手伝ったそうです。あとお礼を届けるので」と届け先を聞くと「お城へ」とのこと。お礼の餅を届けに行く、手伝ってくれたのはお侍さんではなくお殿様!!とわかり大変驚いたという...」。

遠藤さんの話に続けて、相田さんも「農家に対する接し方がすばらしかった。少しの年貢も無駄にしないようお蔵を建てて米を保管し、食べるのに困った領民がいると」

内外に向けたPRを行いながら、全国的な盛り上がりにつなげていきたいと考える「鷹山公大河ドラマの会」。実現すれば、米沢が関係する大河ドラマは『天地』と『独眼竜政宗』『天地人』に続く4作目となります。『天地人』の時は同時に「天地人博」が開かれ、入場者数は50万人以上、経済波及効果は70億円以上と推測されるとか。今回ドラマ化になれば「それ以上になるので」と、メンバーは地域の活性化につながる経済効果にも期待を寄せています。

「質素節約、物を大切に」という鷹山公の教えは、今も米沢市民の中に生きています。背景には、市内全小・中学校の体育館には上杉謙信公と鷹山公の肖像画がかけられ、小さい時からその存在を知り得る環境がひとつ挙げられる。会の活動は、上杉鷹山公だけでなく、今も思いを受け継いでいる人々の姿、そして地域の魅力を発信する機会にもなりました。『天地人』はドラマ化まで10年かかりましたが、今回はなんと5年



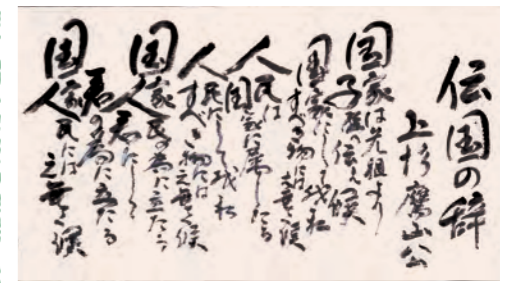
『天地人』上杉景勝像と直江兼統像



伝国の辞(でんこくのじ)



書:羽生 龍翠先生



一、国家は先祖より子孫へ伝え候国家にして、我私すべき物にはこれ無候
一、人民は国家に属したる人民にして、我私すべき物にはこれ無候
一、国家人民の為に立たる君にして、君の為に立たる国家人民にはこれ無候

鷹山公が、次期藩主 治広公に家督を譲る際に申し渡した、3カ条からなる藩主としての心得です

地域活性化につなげたい

その米を渡したという話も聞きました。米沢藩は、江戸時代中期に起きた天明の大飢饉でほとんど餓死者を出さなかったと言われています。常に領民を大事にしていたことがわかります。「地道な改革で、米沢だけでなく置賜全体の産業振興の基礎を作った人。米沢織、深山和紙など伝統工芸として受け継がれているのも、鷹山公の功績ですね」と、事務局長の田邨憲一さんも話を続けます。

「世界に誇れる大偉人!」これが全員に共通する思いのようです。



現在13の団体委員の他、個人と賛助会員を合わせて102人が応援団に。置賜地域だけでなく、県

会では、これまでフォーラムの開催やNHK山形局長との対談を実施しながら、ドラマ化の実現を目指して日々活動してきました。ホームページやSNSを立ち上げ、ファンを広く増やす工夫も。



第6回
秋月三名君フォーラム
in米沢 2022

YouTubeでも
配信予定!

10月22日(土)

伝国の杜 ホール(米沢市丸の内1丁目2番1号)
14:00~17:40 入場料 500円

秋月家・黒田家・上杉家の三名君の和歌の詩吟や、藩の歴史・政治のディスカッションなどが行われます

イベントの詳細は下記まで

イベントのお知らせ



上杉鷹山公NHK大河ドラマ化をすすめる会

事務局 田邨(たむら)まで
0238-23-6181

ホームページ
youzanproject.jimdofree.com

